

インターバンクの声（2016 年 12 月 1 日）

昨日、ウィーンで開催された石油輸出国機構（OPEC）総会は、事前の悲観的な見方を覆して最終的には減産合意したと報じられている。総会直前に開催されていた非公式会合にはサウジアラビアの参加見送りや、増産を主張するイランは減産に同意する可能性は低いなどと報じられ、市場でも減産合意は難しそうだとの見方がもつぱらだった。いかにこうした外部の見方が当てにならないのかを改めて思い知らされる今回の結果だ。

昨日は東京時間から OPEC 総会での減産合意の可能性が高いなどとの情報が流れ始め、為替市場でもドル買いが意識される展開になっていたが、まさかドル/円がニューヨーク時間に 114 円台中盤まで上昇するとは思わなかった。11 月の最終日だったことも微妙に影響していたようで、ロンドン・フィキシングにかけてドル買いが加速していたのがその証かも知れない。

原油価格や米国債利回りの上昇に加え、ADP 雇用統計の結果も予想を上回っており、来年に入ってから米国の利上げペースが早まるとの見方もドル買いを後押ししている。115 円がドル高値の限界だろうなどと決め付けられないほうが良さそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。